



# 市民の皆様からいただいたご意見や評価を公表します ～第6回 市政に関する意識調査の結果～

●問合せ：秘書広報課 Tel) 69-2101 Fax) 63-4619

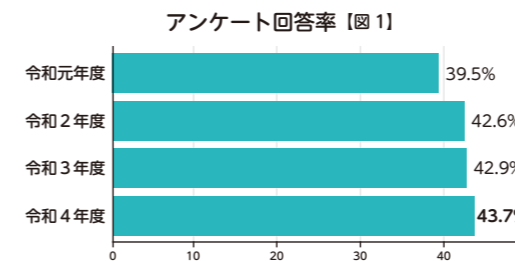
市では、今後の市政運営の基礎資料として活用するため、市政についての意識調査を毎年実施しています。今回も3,000人の方にお願ひし、1,310人(回答43.7%)の方からご回答をいただき、これまでの調査で最も高い回答率となりました。【図1】ご協力をいただきました皆様、お忙しい中ご回答いただきありがとうございます。なお、全ての結果をまとめた調査報告書は、市ホームページ、または地域市民センターや図書館で閲覧いただけます。

- 調査対象 市内在住の個人3,000人
- 調査期間 令和4年7月20日(水)～令和4年8月7日(日)
- 調査方法 郵送配布・郵送回収またはインターネット回答

市ホームページ▶



- 調査項目 市民意識(住みやすさ、幸福度、市の魅力度、定住意向、市政への関心等)/環境保全(環境を良くするために重要なこと、環境への取り組み)/障がい福祉(障がい者施策の充実、共生社会の実現)/新型コロナウイルス感染症関連(困っていること、今後必要な支援)

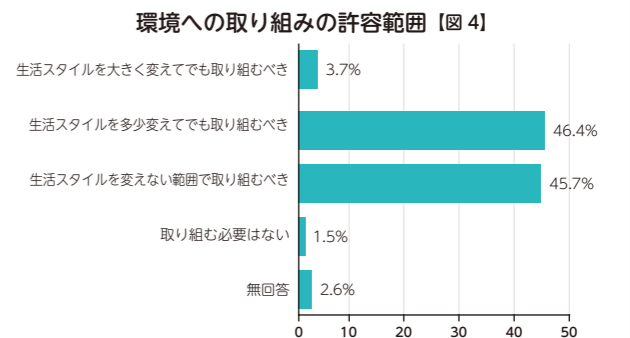
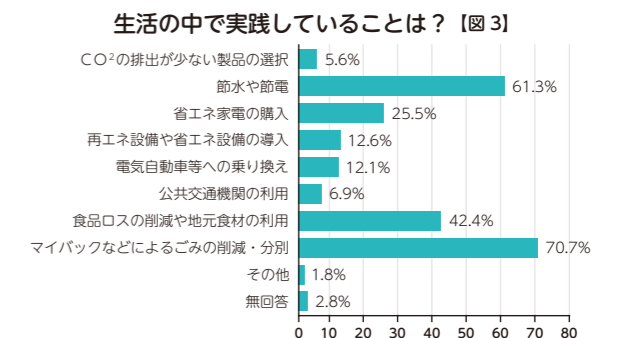
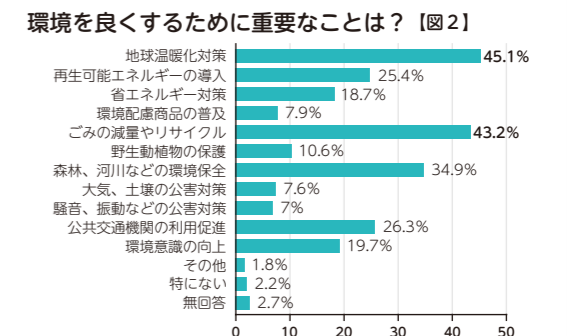


## 環境を良くするために重要だと思うことは「地球温暖化対策」 次いで「ごみの減量やリサイクル」

本年度は「環境未来都市宣言」の実施にあわせて、環境に対する調査を実施しました。多くの方が環境への関心が高く、中でも重要だと思う内容は「地球温暖化対策」(45.1%)、次いで「ごみの減量やリサイクル」(43.2%)という結果となりました。【図2】

また、生活の中で実践していることとして「マイバックスの使用などによるごみの削減・分別」(70.7%)、次いで「節水・節電」(61.3%)となり、個人や家族など、それぞれが環境を意識されていることが伺えます。【図3】

環境への取り組みを進めるうえでの生活の許容範囲をお聞きしたところ、「現在の生活スタイルを多少変えてでも取り組むべき」(46.4%)、次いで「現在の生活スタイルを変えない範囲で取り組むべき」(45.7%)となりました【図4】



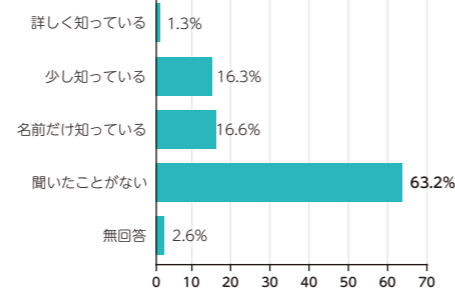
## 障がい者施策を進めていく上では「働く場の確保や就労定着の支援」、次いで「障がいのある方への理解を深める教育や広報活動の充実」

令和3年6月に制定した「甲賀市手話言語及び情報・コミュニケーション促進条例」について「聞いたことがない」(63.2%)が最も多く、あまり知られていない結果となりました。【図5】

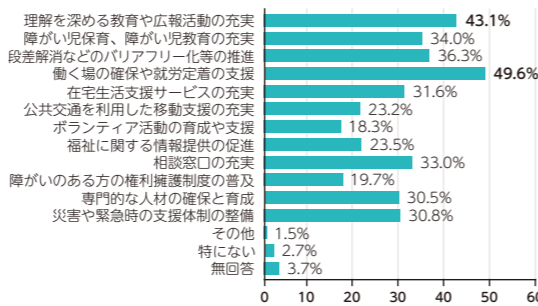
また、障がい者施策を進めていくうえでどのようなことを充実させれば良いかとの問いには、「働く場の確保や就労定着の支援」(49.6%)、次いで「障がいのある方への理解を深める教育や広報活動の充実」(43.1%)となりました。【図6】

共に地域で生活できるように進めるためにできることは「子どもの頃から交流する場や機会を設ける」(41.8%)、次いで「働きやすい環境と一緒に働く機会をつくる」(35.6%)となりました。【図7】

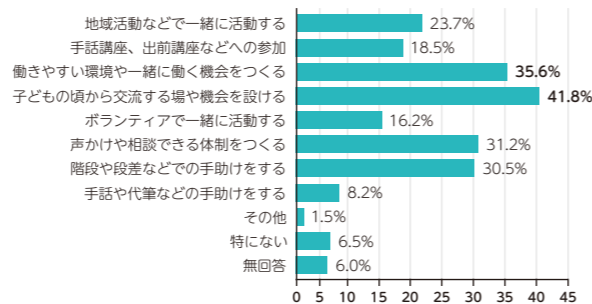
甲賀市手話言語及び情報・コミュニケーション促進条例を知っていますか？【図5】



障がい者施策を進めていくうえで充実させる内容は？【図6】



共に地域で生活できるように進めるためにできることは？【図7】

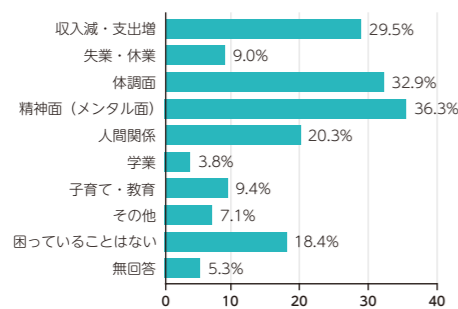


## 新型コロナウイルス感染症で困っていることは「精神面(メンタル)」、次いで「体調面」、「収入減・支出増」は前回より大幅に増加

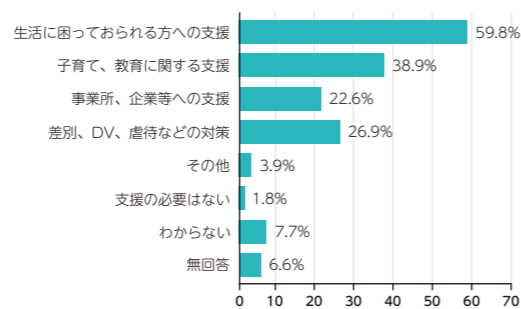
前回に続き、新型コロナによる影響についてお聞きしました。困っていることは「精神面(メンタル面)」(36.3%)が最も多くなっていますが、前回より「体調面」が22%、「収入減・支出増」が9.2%と大幅に増加する結果となりました。【図8】

職業別では、自営業で「収入減・支出増」(55.8%)が、また学生では「精神面(メンタル面)」(50.0%)が最も多くなっています。影響を受けた方への必要な支援については「生活に困っている方への支援」(59.8%)が特に多く、次いで多かった「子育て、教育に関する支援」は40歳代以下の方からの回答割合が高い結果となりました。【図9】

新型コロナで困っていることは？【図8】



新型コロナによる影響で必要な支援は？【図9】



小数点第2位を四捨五入し、小数点第1位までを表示しているため、百分比の合計値が100.0%にならない場合があります。